

感染症の流行を受けて、研修を行いました ～ともしび保育園～



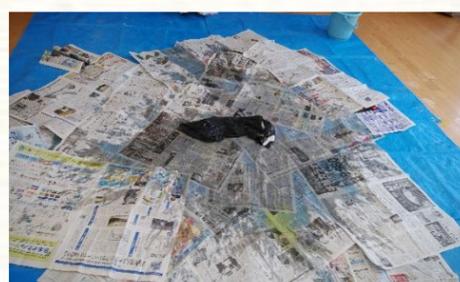
園内で感染性胃腸炎が流行したことを受け、嘔吐物処理の手順を確認する研修がありました。突然の嘔吐に素早く対応し、適切に処理を進めるため認識の統一化を図りました。



嘔吐物に見立てた塗料を、子どもの顔の高さからビニールシートに落とします



素早く新聞で覆い、空気感染を防止。汚れた衣服と共にハイターをしっかりと振りかけ…



しっかりと拭き取り、ゴミ袋へ密封。スピードだけではなく、拭き残がないかしっかりと確認します



素早く撤去！職員は使い捨てエプロンと手袋着用で自らを守る対策もしっかりと！

—研修を見学して—

前かがみで処理をすることで、どうしてもエプロンの裾に嘔吐物が触れやすいこと、気をつけていても職員の靴底に嘔吐物が触れてしまうといった課題について、都度意見交換、対策を決めながら研修が進みました。業務に追われる中、このような研修をすることに消極的になりがちですが、子ども達はもちろん、職員を守る意味でも重要と捉え、しっかりと場を設けて取り組まれていました。ロールプレイをすることで、どこかで自己流になっていたことへの気付き、思いのほか広範囲に飛び散っていることが鮮やかな塗料によりはっきり確認できたことなど、有意義な研修になったと思います。マニュアルは整備されていても、実際に要する時間、水分を吸った新聞紙の扱いにくさなど、体験することでしかわからないことも多いように思いました。これから先、今回の研修での気付き、学びが保育現場でしっかりと活かされていくことと感じています。

法人本部 谷崎

職員インタビューコーナー

保健師になろうと思ったきっかけ

勉強や読書が好きで、はじめは医学研究者か医師になりたかったのですが、そのうち教育者の道へ進みたいという気持ちも湧いてきました。母に想いを相談すると、医療分野と教育分野、両方チャレンジして進路を決めては？とアドバイスをもらい、チャレンジ後、看護師の大学へ進むことにしました。卒業後は緩和ケア病棟と脳外科の急性期病棟で勤務し、塾講師を経て今の保健師になりました。塾講師をしていた際、自分が今一番やりたいことは何か考えたのですが、在宅復帰に興味を抱いていたので、地域福祉に従事したいという想いがありました。そのタイミングで前職である吹田市地域包括の立ち上げがあったので、塾講師から転職し、現職に至っています。

仕事をする上で大切にしていること

一番はチームワークです。個人の強みと苦手を感じる部分を補い合い、切磋琢磨することで強固なチームにしていくことを心がけています。自分に不足しているものに気づき、改善にも繋がっています。

休日の過ごし方、ストレス対処

休日は家事をしたり、子どもとの時間を過ごしています。一番ストレス発散になっているのは、子どもにお土産を買って帰った時の喜ぶ顔を見た時ですね(*^*)

職場環境

チームワークが出来ており、居心地が良いと感じています。うちの包括は、自分を含め元看護職が3名在籍しているため、病院から「連携が取りやすい」というお言葉をいただいています。医療職としての経験があることで、内情の理解が深いことが幸いし、強みとなっていると実感しています。管理者の小川さんの指導も分かりやすく、働きやすい職場です。



飛鳥ともしび苑 地域包括支援センター
保健師 小西秀輝さん

今後、取り組みたいこと

地域交流をもっと増やし、包括だけではなく法人としてもっと地域に寄り添った活動がしたいです。「この地域はともしび福祉会があるから安心」と言われるような法人を目指して、ともしび保育園で育った園児が将来、保育士や介護士などの福祉職としてともしび福祉会に就職する、家族も法人の特養・デイを利用するなど、「ゆりかごから墓場まで」という流れを作りたいという想いがあります。

未来の自分

保健師としてだけではなく、経営に関わられるような人材になりたいです。そうなるために、今は包括でしっかりと地域活動を行って地域のことを理解し、ゆくゆくは法人全体を知っていくことを目標にしています。簿記の資格を取ろうかと思っており、勉強をし始めたところです。